

大沼由紀さん新人賞

若松出身、フラメンコ舞踊家



大沼由紀さん

会津若松市出身のフラメンコ舞踊家大沼由紀さん(五五)は今年度の文化庁芸術祭賞舞踊部門で新人賞を受けた。同庁が二十七日に発表した。県内関係者の新人賞受賞は福島市出身の箏奏者遠藤千晶さん以来九年ぶり。

十一月二、三の両日に都内で行った舞踊公演「Espontánea(エスポンタネア)Ⅳ」フラメンコ、自然的な踊りの力が評価さ

れた。スペインから第一人者を招くエスポンタネアシリーズで九年ぶりに上演した。ほぼ即興で創り上げるカンテ(歌)、ギター、踊りの三位一体の舞台が観客を魅了した。

贈呈式は来年二月六日、都内で行われる。

文化庁芸術祭賞は芸術の創造と発展を図り文化の向上・振興のため昭和二十一年から毎年実施している。(3面にインタビューと関連記事)

うそのない踊り
これからも追求

大沼由紀さんの話

ただただ驚くとともに活動の励みになると実感しました。公演の良しあしにかかわらず自

分が積み重ねてきた何かが伝わったのだと思います。お客さまと出演者が共に感動できる、うそのないフラメンコをこれからも追求し続けていきます。

フラメンコの世界追求

今年度の文化庁芸術祭賞舞踊部門で新人賞を受けた会津若松市出身のフラメンコ舞踊家大沼由紀さん(五五)は、本場スペインの伝統的な様式を守りながらフラメンコの神髄と常に向き合ってきた。受賞理由には「ギターや歌の名手の音楽に

感応して体から湧き上がる自然な踊り。独自の繊細な動き、端正なポーズを紡いで悲しみ、怒り、喜びと深い感情も掘り下げる。表現はみずみずしく今後の成長も期待させた」などが挙げられた。会津女子(現茨高)、日大芸術学部音楽学科

卒。銀テント「究竟頂」退団後、故・土方巽さんらに舞踊の教えを受けた。生計を立てるためピアノ演奏をしていた店でフラメンコと出会い、二十七歳の時に佐藤佑子さんに師事。平成四年、三十一歳でスペインへ渡り、ヘレス・デ・ラ・フロンテ

ーラの町でフラメンコに魅了された。帰国後の十一年、東京・中野にフラメンコ教室「エストゥディオブレイニャ」を設立。昨年、佐藤浩希・鍵田真由美舞踊団への客演で踊り手として新境地を開き、来年三月の同舞踊団公演に客演するなど活動の幅を広げている。来年二月はスペインで公演する。



11月の公演で踊る大沼さん

■インタビュー■

大沼さんは福島民報社のインタビューに際し「多くの人にフラメンコの存在を知ってもらいたい」と抱負を述べた。

「初のエントリーで新人賞を受けた。受賞はありがたく

を追求していきたい」受賞対象となった「エスポタネア」は九年ぶりの公演となった。

「平成十六、十七年の公演で共演した歌い手が『また由紀のため

奏を基本に即興で踊るもの。歌い手の呼吸や歌の長さなど知識がないと絶対にできない。歌を知らなければ、なぜここで、このポーズを取るのかという動機も生まれない」

「長嶺さんは孤高の人。たくさん作品も発表していてすごいと思う。会津は自分の誇り、負けないという気質、誇り高く生きる精神は自分の中にある」

「魂に刺さるものを創る」

「歌いたい」と言ってくれた。それがかなわぬまま十九年に急死してしまい、封印していた。彼のおいトマス・ルビチの歌声を聞き、自然に『またやろう』という気持ちが湧いた

「自身を求めているものは。『見てくださる方の魂に刺さるものを創り上げる。ただ立っているだけで感動が生まれることもあるかもしれない。それを探し続けている」

「今後の抱負は。『また舞台をやりたい。一流の奏者を束ねながら即興で踊ることにはほかの人にはできないこと。自分も誇りに思っている。赤字をつぎ込んで舞台を創り上げてきた。活動に共鳴し、協賛してくれるような団体・法人があれば大変ありがたい」



フラメンコの美学を語る大沼さん

芸術福島県人会長の原田さん

「素晴らしいの一言」

県内関係者も喜びに沸いた。

浪江町出身で芸術福島県人会長の民謡歌手原田直之さん(七四)は「受賞対象となった大沼さんの公演で初めてフラメンコを鑑賞した。これまでさまざまなものを見聞きしてき

長嶺ヤス子さんら過去に受賞

県内関係者

芸術祭賞はこれまで

に多くの県内関係者が受賞している。会津

出身者で、すてきな人が活躍している。いろいろな分野の県人会のメンバーと同様、これからも芸の幅を広げてほしい」と祝福した。

大賞に落語家の桂文之助さんら今年度の芸術祭は十月二日から十一月十日に関東、関西であった演劇四十四件、音楽四十四件、舞踊二十六件、大衆芸能五十四件の参加公演と、十月一日から十一月三十日の期間に放送されたテレビ・ドラマ十五作品、テレビ・ドキュメンタリー

三十七作品、ラジオ二十六作品、レコード三十作品が審査対象となった。各部門で大賞、優秀賞、新人賞が贈られた。大賞は大衆芸能部門が落語家の桂文之助さん(六〇)、演劇部門が能楽師の梅若万三郎さん(七五)ら。舞踊部門では大沼さんら二人が新人賞を受けた。大賞は該当がなかった。